

中学校第 1 学年 社会科学学習指導案

日 時 平成 28 年 10 月 20 日 (木) 2 校時
指導者 教育センター所員 元山 祐介

単元名 「アフリカ州」(帝国書院 pp. 64-73)

1 単元について

本単元は、中学校学習指導要領解説社会編の地理的分野の内容(1)「世界の様々な地域」「世界の諸地域」の(ウ)アフリカを受け設定したものである。アフリカ州の地域的特色を捉えさせるに当たっては、「モノカルチャー経済下の人々の生活」を主題とし、学習問題を設定して地域的特色を追究させることができるように単元構成を行う。アフリカ州は赤道を挟んで南北に長く、広い面積をもち、サハラ砂漠をはじめ多様な地形から成り立っている。気候帯は、熱帯である赤道付近を挟み、ほぼ南北に乾燥帯、温帯の地域が広がっている。人類の始まりの地であり、四大文明の一つであるエジプト文明が栄えた古い歴史をもっている。しかし、16世紀から19世紀初頭にかけて、ヨーロッパ諸国により南・北アメリカ大陸に向けた奴隷貿易が行われ、アフリカ州の発展の大きな妨げとなった。その後もアフリカ州の多くの国がヨーロッパ諸国に植民地支配された歴史から、現在もヨーロッパとの強いつながりをもつ国が多い。経済的には、植民地支配により形成されたプランテーション、特定の農産物や鉱産資源の輸出に頼る脆弱なモノカルチャー経済によって立ち遅れているが、近年、先進国に注目されているレアメタルの採掘や適正な価格で取引を行うフェアトレードなどの経済の安定に向けた取組も行われている。アフリカ州の多くの国が現在抱える問題として、人口増加や自然災害による食料不足、貧困や飢餓、テロや内戦、感染症による死亡率の高さ等がある。このような問題を共有し、協力して解決策を考えるために、アフリカ連合(AU)を結成し、地域統合を目指すなど自立のための様々な努力も行っている。しかし、アフリカ州の自力での発展には限界があるため、日本を含む先進国は、教育や保健医療、農村開発、輸送インフラ、貧困削減、平和構築、環境保全等、技術支援や開発援助を行っており、アフリカ州の発展に大きな役割を果たしている。このようにアフリカ州の自然環境、文化と歴史、産業、自立に向けての課題等の地域的特色を追究させることは、様々な支援や援助を行っている日本で生活する生徒にとって、意義のあることだと考える。

事前調査において本学級の生徒は、地理的分野の学習について、「とても好き」17%、「どちらかといえば好き」42%「あまり好きでない」29%、「好きではない」12%と回答している。地理的分野の学習に興味がある生徒は、国旗や国名だけでなくその地域の国々の生活や文化について調べることや分からないことや難しいことをみんなで考えていくことが好きと回答している。一方で、覚えることが多いために苦手意識をもっている生徒も少なからずいる。また、自分の考えを発表することに関しては、約70%の生徒が「あまり得意ではない」「得意ではない」と回答している。自分の考えを学級全体に伝えたり説明したりすることに抵抗を感じているが、75%の生徒がペアやグループ活動によるさを感じているので話し合い活動などを効果的に取り入れていきたい。今回学習するアフリカ州については、「エジプト」「ピラミッド」「ナイル川」「国境線に緯線や経線が使われている」等の既習事項は理解しているが、それ以外については、「暑い」「動物が多い」「砂漠」といった断片的なイメージしかもっていないので、意外性を感じさせることで主体的な学習につなげていきたい。

指導に当たっては、「つかむ」過程で、生徒が認識しているアフリカ州のイメージに対して、実際の現状を示す写真資料等を提示し、意外性を感じさせつつ、気付きや疑問を引き出したい。それを基に、アフリカ州の人々の生活の様子について予想させ、単元を貫く問いとして、学習問題Ⅰ「アフリカ州の人々は、どのような生活をしているのだろうか。」を設定させる。「調べる」過程では、生徒の予想を基に、アフリカ州の文化と歴史について調べさせ、ヨーロッパとのつながりと関連させながら理解させる。また、アフリカ州の産業の特色や輸出品からモノカルチャー経済の問題点や自立に向けての課題について理解させながら学習問題Ⅰをまとめていく。その際、常に学習問題を意識しながら追究活動が進められるように、毎時間、学習のまとめを記述させたり、キーワードを整理させたりする時間を設定する。その後、アフリカ州の国々が抱えている問題について考えさせ、学習問題Ⅱ「アフリカ州が自立していくためには、何を優先すべきか」を導き出す。「考え・まとめる」過程では、

これを論題として討論型の学習を行う。調べて見つけた資料から、アフリカ州の現状と調べて分かったことを根拠に、理由を付けて問題解決に向けた意思決定を迫り、多面的・多角的に考察させていきたい。グループや学級全体での話し合い活動を通して、アフリカ州の地域的特色を捉えさせたい。

2 単元の目標

- (1) アフリカ州におけるモノカルチャー経済下の人々の生活について追究する学習問題を基に、アフリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えさせる。
- (2) アフリカ州におけるモノカルチャー経済下の人々の生活について追究する学習問題を基に、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) アフリカ州の地域的特色に関する様々な資料を収集させ、それらの資料の中から有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) アフリカ州におけるモノカルチャー経済下の人々の生活について追究する学習問題を基に、アフリカ州の地域的特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。

3 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○アフリカ州におけるモノカルチャー経済下の人々の生活について追究する学習問題を基に、アフリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	○アフリカ州におけるモノカルチャー経済下の人々の生活について追究する学習問題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○アフリカ州の地域的特色に関する様々な資料を収集し、それらの資料の中から有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○アフリカ州におけるモノカルチャー経済下の人々の生活について追究する学習問題を基に、アフリカ州の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

4 指導計画（全 8 時間 本時 2 / 8）

過程	主な学習活動（○）	教師の働き掛け（○）	評価（・）評価の観点【】	時配
つかむ	○アフリカ州を概観する。	○地形図、雨温図、分布図、写真などの資料からアフリカ州の自然環境について読み取らせることで、アフリカ州の概観を整理する。	・様々な資料から、アフリカ州の自然環境について読み取り、まとめている。 【技】 [ワークシートの記述]	2 (本時) (2/8)
	○モノカルチャー経済下の人々の生活を視点として地域的特色を追究する学習問題 I を設定する。	○生徒がアフリカ州についてイメージしていることと現状が分かる資料との違いに着目させ、生徒の気付きや疑問から学習問題 I を設定し、確かめたいことやもっと知りたいことをワークシートに記述させたり、発言させたりする。	・アフリカ州についての気付きや疑問から学習問題 I を設定し、確かめたいことやもっと知りたいことを考えている。 【思】	
	アフリカ州の人々は、どのような生活をしているのだろう。(学習問題 I)			
			[発言の内容やワークシートの記述]	

調 べ る	○アフリカ州の文化と歴史の特色について調べる。	○アフリカ州の文化と歴史の特色について理解させるために、ヨーロッパとのつながりの面から調べるように促す。	・アフリカ州の文化と歴史の特色について、ヨーロッパとのつながりの面から調べ、その知識を身に付けている。【知】 [ワークシートの記述]	4
	○アフリカ州の産業の特色と課題について調べる。	○輸出品を基に、フェアトレードやモノカルチャー経済の面からアフリカ州の産業について読み取らせることで、その産業の特色と課題について整理する。	・アフリカ州の産業の特色と課題について、輸出品を基に、フェアトレードやモノカルチャー経済の面から調べ、まとめている。【技】 [ワークシートの記述]	
	○アフリカ州の国々が抱えている問題について調べる。	○アフリカ州の国々が抱えている問題について理解させるために、それぞれの国の取組や他国からの支援を基に調べるように促す。	・アフリカ州の国々が抱えている問題について、それぞれの国の取組や他国からの支援を基に調べ、その知識を身に付けている。【知】 [ワークシートの記述]	
	○これまでの学習を振り返り、学習問題Ⅰをまとめ、話し合うべき問題を見だし、学習問題Ⅱとして設定する。また、これを論題として、意思決定Ⅰを行う。	○これまでの学習を振り返り、アフリカ州の国々が抱えている問題から、それらの国々が自立していくために必要なことに着目させながら学習問題Ⅱの設定に導く。 ○学習問題Ⅱを論題として1回目の意思決定を促す。	・アフリカ州の国々が抱えている問題から、学習問題Ⅱを設定し、それらの国々が自立していくために必要なことを考え、判断し、表現している。【思】	
アフリカ州の国々が自立していくためには、何を優先すべきか。(学習問題Ⅱ)				
考 え ・ ま と め る	○討論型の学習に向けた調査活動と準備を行う。	○1回目の意思決定から自分が考える優先すべきことの根拠となる資料を見付けるように促す。	[ワークシートの記述]	2
	○討論型の学習を通して、様々な価値や社会像に気づき、意思決定Ⅱを行う。	○自分の意見について理由を説明させることを通して、根拠を明らかにする。 ○自分なりに判断し、意思決定できるように様々な意見を聞き、質問するように促す。	・根拠となる適切な資料を探し、自分の考えをまとめようとしている。【関】 [活動の様子とワークシートの記述] ・様々な意見を聞き、自分なりに判断した上で、自分の考えを表現している。【思】 [発言の内容とワークシートの記述]	

5 本時の目標

アフリカ州についてイメージしていることや現状が分かる資料からその違いに着目し、気付きや疑問を出し合いながら、学習問題を設定し、これからの見通しを立てるために確かめたいことやもっと知りたいことを考えている。 【思考・判断・表現】

6 指導の視点

「学習問題をつかむ」過程となる本時は、生徒に全 8 時間の単元の学習に問題意識をもたせ、学習問題を解決するために調べる見通しをもたせる上で大変重要である。資料の提示や発問の構成により気付きや疑問を生徒に出させ、それらを関連付けて学習問題を設定していく活動を行わせる。その活動において、生徒自身が見通しをもつことができ、アフリカ州の自然環境、文化と歴史、産業等、調べたことを関連付けながら、地域的特色を捉えさせることにつながっていくと考える。

7 展開

学習活動	教師の働き掛け (○) と評価 【】
1 前時の学習 (アフリカ州の概観) を振り返る。 (学級全体)	○前時に学習したアフリカ州の自然環境について振り返らせ、アフリカ州についてイメージさせておく。
2 本時のめあてを確認する。 (学級全体)	○本時の学習の流れを示す。その際、アフリカ州を追究していく学習問題を設定することを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて アフリカ州の学習問題を立てよう。</div>	
3 「アフリカ州はどんな地域か」を予想して、イメージしていることや気付きを発表する。 (学級全体)	○アフリカ州についてイメージしていることや気付きを発表させる。 ○生徒の発言やつぶやきに問い返しを行い、そのように思った理由や根拠を示すように伝える。 ○生徒から出されたイメージしていることをグループ分けして、以下の視点でまとめる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 予想される生徒のイメージや気付き ・暑い, 砂漠, 動物 (自然) ・多様な民族, 言語 (生活・文化) ・ピラミッド, 猿人, 植民地 (歴史) ・ダイヤモンド, 資源が多い (産業) ・貧困, 食料不足, 内戦や紛争 (問題点) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">視点：自然, 生活・文化, 歴史, 産業, 問題点</div>
4 現状を示す資料と、生徒のイメージしていることを比較する。 (学級全体)	○電子黒板を使用し、写真資料を提示する。その際、イメージしていることとの違いについて実感を伴って感じられるように、複数の写真資料から比較させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 使用する写真資料 ・国の風景 (エジプト, ケニア, チュニジアなど) ・ダイヤモンド ・携帯電話を使用するマサイ族と携帯電話普及率 </div>	
5 イメージと現状の違いから生まれた気付きや疑問をまとめ、ペアで記述した内容を共有する。 (個人・ペア)	○記入した気付きや疑問をペアで共有させることによって、自分以外の考えに触れる。
6 気付きや疑問を発表し、それを基に学習問題を設定する。 (学級全体)	○イメージと現状の違いから生まれた気付きや疑問を発表させ、生徒が発表した内容やキーワードを基に学習問題を導き出す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習問題 アフリカ州の人々は、どのような生活をしているのだろう。 </div>	
7 これからの学習について、確かめたいことやもっと知りたいことをまとめる。 (個人)	○これからの学習の見通しを立てさせるために、確かめたいことやもっと知りたいことをワークシートに記述させる。 【思】

8 本時の評価

評価規準	アフリカ州についてイメージしていることや現状が分かる資料からその違いに着目し、気づきや疑問を出し合いながら、学習問題を設定し、これからの見通しを立てるために確かめたいことやもっと知りたいことを考えている。 【思考・判断・表現】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	気づきや疑問を基に確かめたいことを複数記述している。	気づきや疑問を基に確かめたいことを1つ記述している。	(B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した生徒への支援		→他の視点からも考えてみるように声掛けをする。	→板書を基に、気づきや疑問をつなげて記入するよう促す。
評価方法	ワークシートの記述		